

きんき



174号



【聴竹居（ちょうちくきょ）】

聴竹居は、1928（昭和3）年、天王山の麓、大山崎の山中に、建築家・京大教授である藤井厚二（1888～1938）が設計し自邸とした5回目の実験的住宅である。日本の気候風土を考え各種の工夫を凝らした木造モダニズム住宅の傑作であり環境共生住宅の先駆けとしても評価されている。2013年、現上皇ご夫妻が視察。2017年、国の重要文化財に指定された。JR山崎駅下車、徒歩約10分。見学には予約が必要である。

加藤 裕造（建設・総監）

目 次

[項 目]	[執筆者]	[頁]
表 紙 聴竹居 (ちょうちくきよ)	加藤裕造	1
巻頭言 「新型コロナウイルス」に打ち勝って令和維新を実現	本多利行	3
近畿本部/支部 報告・予告		
理事会だより (2019-No. 6)	河野千代	4
理事会だより (2020-No. 1)	河野千代	7
2020 年度第 1 回役員会議事録(案)	田岡直規	10
2019 年度技術士第二次試験合格者祝賀会案内	事務局	12
部会/活動グループ 報告・予告		
近畿本部 化学部会	藤橋雅尚・橋本隆幸	13
近畿本部 技術士業務研究会	三木茂男	17
特集「スポーツと技術」		
スポーツと技術	古川正明	18
オリンピックで使用されるトップアスリート向けスポーツ用品の軌跡	荻野 毅	20
脳に汗かく「e スポーツ」	坂東大輔	22
道路における暑熱対策として『保水性舗装と遮熱性舗装』	辻井 豪	28
編集室だより		
「きんき」オンライン編集会議	「きんき」編集室	31
編集後記	吉田富彦	32

新型コロナに関する原稿 緊急大募集!!

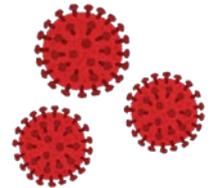
詳しくは P27 の囲み記事をご覧ください

「新型コロナウイルス」に打ち勝って令和維新を実現

近畿本部情報工学部会 部会長 本多 利行

2020年を迎えたときには誰も今の状態を想像しなかつただろう。中国の武漢を起源とする「新型コロナウイルス」が世界中で猛威を奮って私たちの生活は一変した。4月16日、史上初の「緊急事態宣言」が発令された。感染防止のために「3密」を回避するとして10人以上の集会は自粛が要請され、技術士会における活動も多くの集会在中止された。

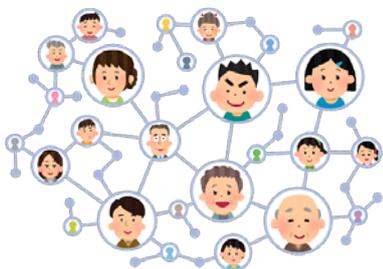
「新型コロナウイルス」はいくつもの課題を浮き上がらせた。とても巻頭言の1枚に収まるものではないが簡単に触れてみたい。いくつかの課題の共通点として国の施策の実行の遅さが挙げられる。PCR検査の拡充、アベノマスクの配布、給付金の支給等、いずれについてもそうである。このような事態になっている要因は一つではないだろうし、私が詳細を把握しているわけではない。



しかし日本の行政システムがIT活用後進国であることが影響していると考えている。マイナンバーカードの普及は進んでおらず、今回のマイナンバーカード更新手続でもシステム障害を多発させた。日本の紙文化からなる社会基盤では情報の共有が難しく、どうしても運用の無駄が多くなる。そのため処理業務の増減や変化に対しての適用力が極めて低い。近年日本の企業の国際競争力が低下している要因の一端がここに表れている。

今回市民権を得た言葉に「ビッグデータ」がある。日本の外出禁止に強制力はなくお願いレベルである。そのためスマートフォンの位置情報ビッグデータを基にした解析情報が、外出自粛の物差しとして日々メディアでレポートされた。感染防止のために感染者の行動記録を開示している国は少なくない。しかしビッグデータ活用はプライバシー侵害のリスクがある。日本人は諸外国と比較してプライバシー侵害に対して特に拒絶反応が強い。日本ではプライバシーを保護しながらの感染防止情報の提供を進める必要がある。

今回大きく普及したものとしてWeb会議システムが挙げられる。外出自粛の要請を受けて在宅勤務を推進するために一気に普及が進んだ。テレビ放送では出演者がオンラインで自宅から出演するのも珍しくなかった。昨年末から休校に入った学校であるが、新年度を迎えてオンライン授業を導入する学校が増えている。この様に今は必要に迫られてオンライン会議システムが使用されているが、セキュリティには課題が多いことも忘れてはならない。



日本では医療崩壊直前の第一波の危機的状況乗り越え、引き続き感染防止のために「新しい生活様式」の実践を推進しながら経済活動の緩やかな再開を模索している。感染対策を基本にして移動を控え人と人との接触を極力控えたうえでの経済活動。これにはITインフラの拡充は欠かせない。ITインフラの整備と活用が、未知のウイルスに対抗するための大きな武器となる。

また最終的に日常を取り戻すためにはワクチンの開発が欠かせない。ワクチンの開発にはビッグデータを分析しAIを活用することが大きな役割を果たす。

「ピンチはチャンス」という格言がある。「新型コロナウイルス」との戦いが日本のIT活用を飛躍的に躍進させて競争力を蘇らせた「令和維新」(令和日本のIT革命)として、多くの技術分野の変革を推進したと後の世に語られるようになることを願う。